

# 令和元年度前橋版M a a S実証実験結果について

## 1. 実証実験概要

### (1) 目的

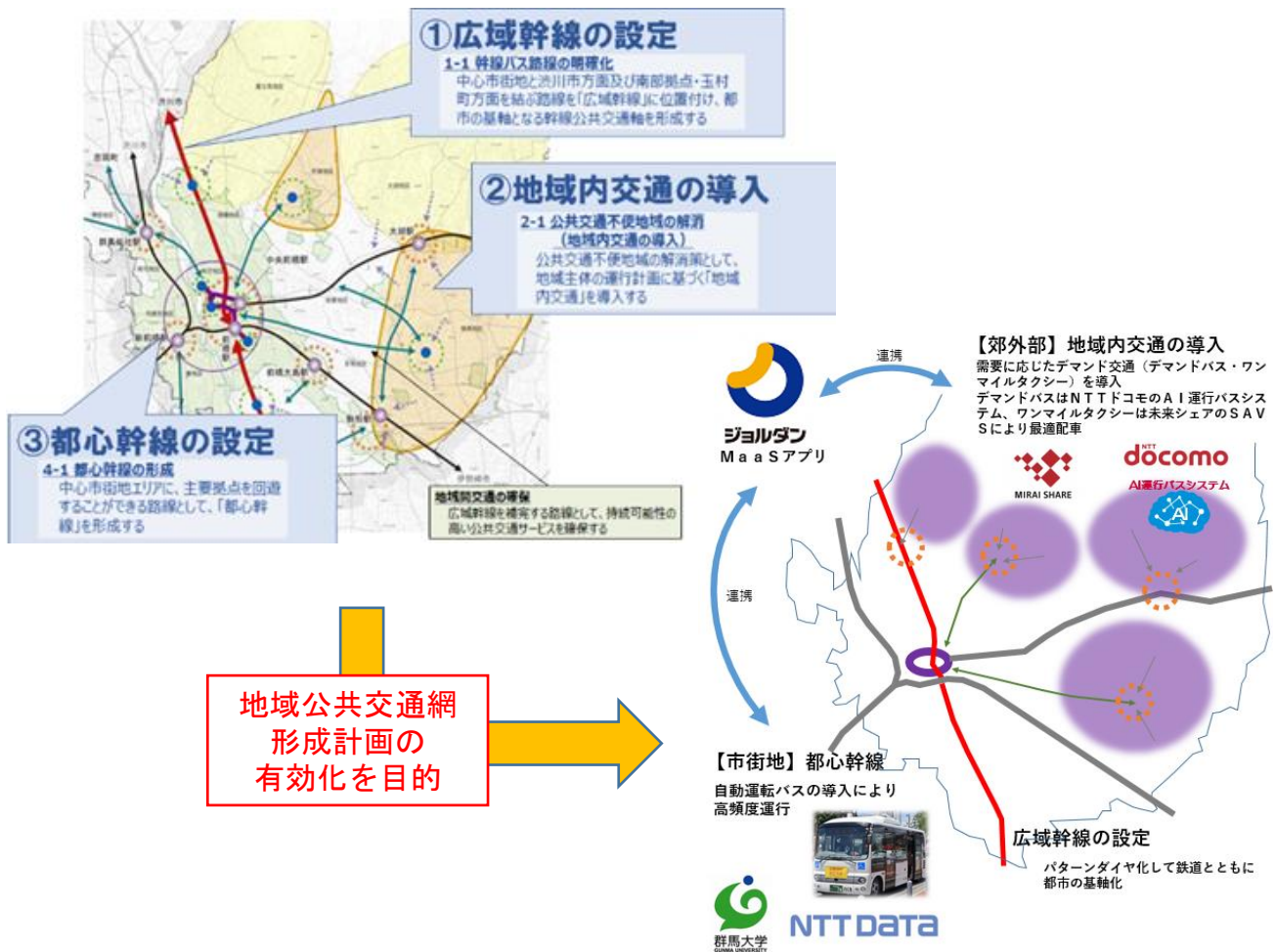
市内の交通再編計画の有効化を目的として、前橋版M a a S<sup>\*</sup>環境の試験的な運用を行うとともに、新たな移動手段を導入し、移動実態の変化検証を行うもの。

### (2) 内容

複数の交通モードを横断するM a a Sアプリの技術的な実装の検証、デマンドバスやワンマイルタクシーといったデマンド交通の予約、デマンド交通を含む複数の交通モードの一括経路検索の実現。商業施設との連携によるクーポンの発券により、中心市街地での「買物」の誘発効果の検証・分析を実施した。

※前橋版M a a S (マース = M o b i l i t y a s a S e r v i c e)

出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービスをいう。前橋版M a a Sの特徴として、市内デマンド交通と定時定路線との一括検索と予約、自動運転バス運行管制システムとの連携による利便性の高い交通サービスの提供や商業連携によるクーポンの発券にて、波及効果の検証を行った。



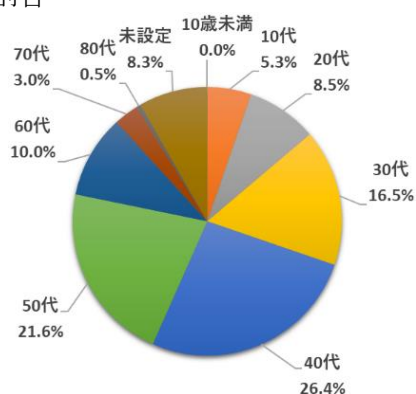
## 2. 利用実績

### (1) MaaSアプリ利用実績値

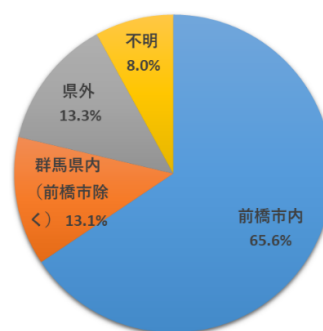
実験期間	: 2020年1月27日～3月10日 (44日間)
アプリダウンロード数	: 901件
経路検索数	: 2,524回 (内デマンド交通検索数542回)
施設検索数	: 1,024回 (内クーポン掲載施設検索数911回)
クーポン表示数	: 411回 (内クーポン利用数29回)
クーポン提供協力店	: 12店舗

### (2) 利用者属性

#### 年齢割合



#### 地域割合



### (3) アプリアンケート回答より

#### (活用実態)

- ・実際にダウンロードして利用できた方は約8割、半数はダウンロードでき経路検索まで行ったが、実際の移動には結びついていない。約3割が検索して移動まで結びつく結果となった。

#### (評価が高かった点)

- ・1位経路検索で十分に目的地に行ける、2位これまで知らなかった経路を知れた、3位クーポン連携についてであった。

#### (改善すべき点)

- ・1位クーポン連携施設が少ない、2位掲載されている施設情報の数が少ない、3位一部の交通手段が検索対象外となっていて手間が多い。

#### (全体満足度)

- ・全体的な満足度では約7割が便利だと思いと回答。

### (4) 考察及び課題

- ・利用者属性の年齢割合に差が見られるため、若年世代や高齢世代に対し、周知や利用方法の案内の工夫が必要だと考えられる。
- ・活用実態として、実際の移動に結びついていないことが課題としてあげられるため、更なる利便性の向上策を検討し、公共交通の利用機会増加に繋げていきたい。

### 3. ワンマイルタクシー（芳賀地区）

#### （1）実証実験概要

タクシーとバスの相互利用促進策として実施。対象地区の中に、バスとの接続を想定した乗り換えポイントを設定。短距離移動を前提にタクシーを活用し、ファースト・ラストワンマイル手段を導入することで、移動実態の変化を検証。またデータ連携により MaaS アプリからの予約を可能とした。

#### （2）ワンマイルタクシー利用実績値

実験期間 : 2020年1月29日～3月10日（42日間）

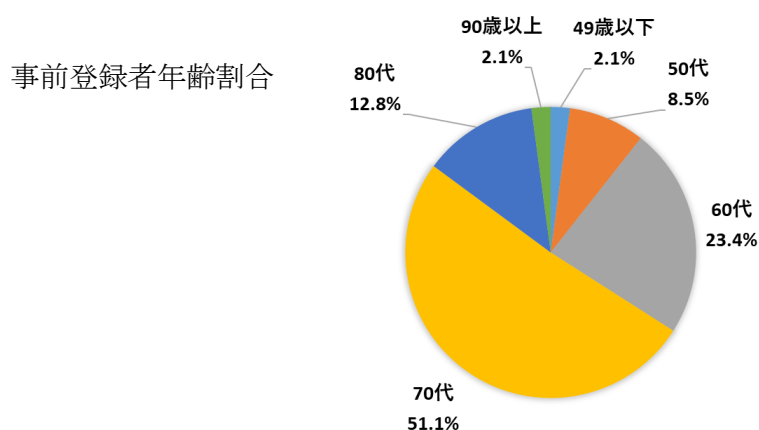
運行回数 : 116回

予約内訳 : 電話予約104件、アプリ予約12件

利用者数 : 160名

事前登録者数 : 47名

※事前登録者は電話利用者に限る



#### （3）車内アンケート回答より

##### （活用実態）

- ・利用者は大半が地区内在住であるため、自宅から乗車ポイントまでは、徒歩で移動し、最終目的地の7割強が地区内となっている。
- ・乗車目的は約半数が買い物、次いで地区内の用事。

##### （評価が高かった点）

- ・ワンマイルタクシーで十分に目的地に行ける、車内の運転手の案内がわかりやすい。

##### （改善すべき点）

- ・乗換えポイントを増やしてほしい、路線バス以外の公共交通機関への接続。

##### （将来の移動への備えとして）

- ・9割超がワンマイルタクシーにより将来の移動に対する不安が解消されると回答。

#### （4）考察及び課題

- ・現状、利用者の多くが高齢者であり、電話とアプリ利用の差を確認することができた。地域特性や事業の継続性を踏まえ、引き続き利便性の高い交通環境の構築を検討する。

#### 4. 事業スキーム（スマートモビリティチャレンジ）

(1) 国土交通省支援事業：

M a a S構築に向けた実証実験に対して補助金の交付

総事業費 36,503千円

(国14,200千円 民間企業20,675千円 前橋市1,628千円)

※前橋市の負担分については、主にワンマイルタクシー実施費用

(2) 経済産業省支援事業：

実証実験を踏まえた将来構想、事業計画策定や効果分析・啓発に関する国直轄事業

#### 5. 今後の取り組み

前橋市地域公共交通網形成計画の実現に向けた交通再編作業に併せ、M a a S環境構築に係る経済産業省と国土交通省への公募申請を行う。令和元年度の取り組みを踏まえ、運賃政策を含めた決済機能の追加などによる乗り換え抵抗の軽減、商業などの他産業とのサービス連携による利便性の向上を図る。

令和2年度前橋版M a a Sの取り組み想定スケジュール

